

特 255

490

昭和十六年七月

良

書

第三輯

和歌山高等商業學校



始



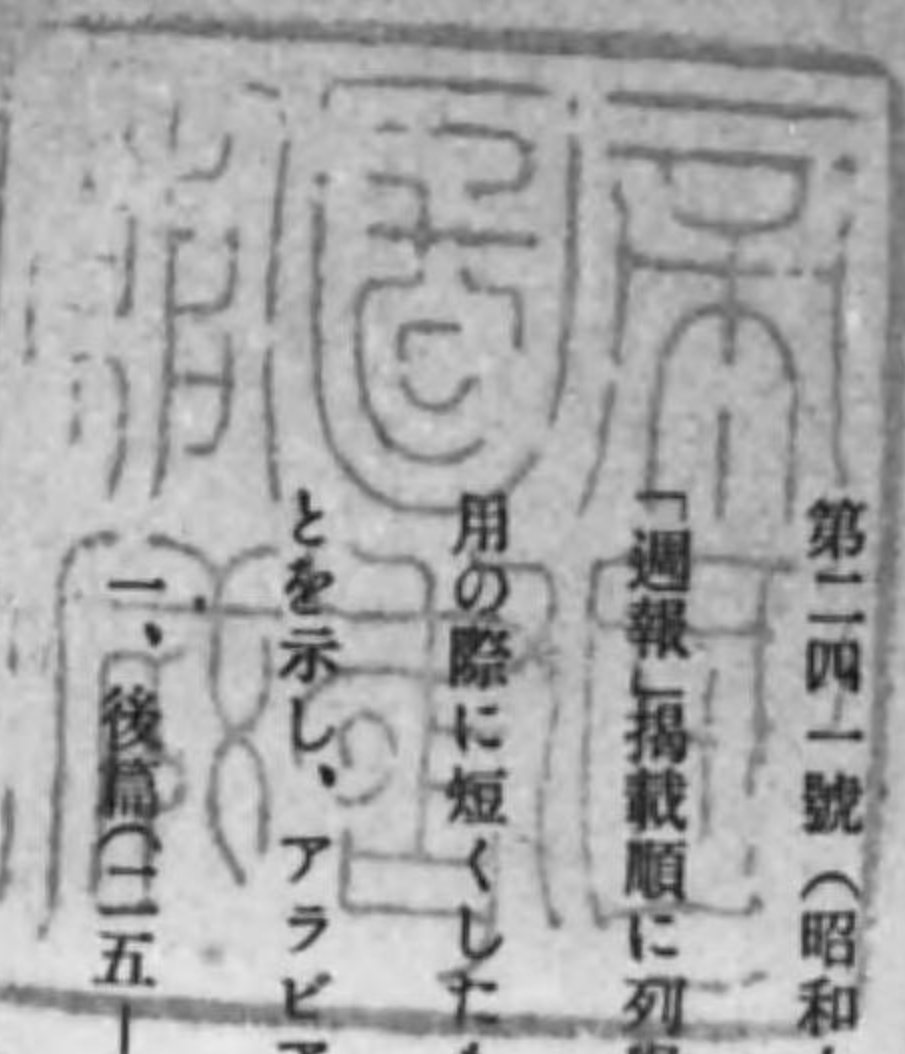
特 255
490

凡 例

發行所寄贈本

一、本書の前篇(一一二四頁)は、情報局編輯の「週報」第一九二號(昭和十五年六月十九日發行)乃至第二四一號(昭和十六年五月二十一日發行)に掲載されたる文部省推薦圖書及び教學局選獎圖書を、「週報」掲載順に列挙したものであつて、紹介文も「週報」のものを用いた。但し引用を省略し或は引用の際に短くしたものもある。尚、著者名下の(文)は文部省推薦圖書、(教)は教學局選獎圖書たることを示し、アラビア數字は本校圖書館藏書の分類記號である。

二、後篇(二五——三一頁)は、教學局が昭和十三年九月乃至十六年五月に選獎せる圖書を發表順に列挙したものである。



文部省推薦圖書
教學局選獎圖書

庄内平野 丸山義二著 (文)

昭和一五、二 東京朝日新聞社
四六判 三六九頁 一・五〇
本書は山形縣東田川郡大和村に於ける滿洲大陸への分
村運動を主題とした小説であつて、分村運動が惹き起さ
れるまでの窮迫した農民の生活が克明に描寫されてゐ
る。

海洋學讀本

東京日日新聞社編 (文) 512/21
大阪毎日新聞社編
昭和一五、三 東京日日・大阪毎日
新聞社 菊判 二五三頁 二・〇〇
昨年東京で開かれた兩新聞社主催の「海洋夏期大學」の
際の速記録に、講師の加筆訂正を加へたものである。十

一名の専門家により、それ／＼の部門において「海權の
消長と國家の盛衰、海洋と航空、海洋氣象、我國の遠洋
漁業、海洋學一般、船舶と貿易、外南洋の情勢と邦人の
活動、航海と測量、海洋文學、北氷洋とソ聯、列國海軍
軍備の現状」が記されてゐる。自然科學の一分野として
の「海洋學」の解説書ではなく、海洋に關する凡ゆる方面
が平易に説明されてゐる海洋讀本とも云ふべきものであ
る。海洋國民たり、同時に新秩序の建設途上にある吾々、
しかも従來海洋方面の知識に缺ける憾みのあつた吾々に
豊かな知識を與へ、その重要性を諒解させ、ひいては海
洋精神を旺盛ならしめるのに役立つものとして、廣く一
般にすすめたい。

孫文の生涯と國民革命 (ラヂオ新書10)

河野密著 (文)

昭和一五、二 日本放送出版協會
小四六判 一九二頁 〇・五〇

支那革命の父といはれ、新中國建設の指導者であつた

孫文、そして何よりも、現に支那一般民衆の崇敬的であり、新しい支那の建設のための指導原理となつてゐる孫文の思想について知ることは、新しい支那の動向その行くべき道を知るために是非必要である。本書は新支那認識の手引として書かれたものでその内容は大體「孫文の生涯と支那國民革命運動の經過、孫文の思想體系とその發展過程、三民主義の概要とその功罪、孫文の死後における國民革命運動と孫文主義の影響、孫文と日本との關係、孫文の後繼者としての汪兆銘」といふ順序でこれを説いてゐる。本書によれば孫文及びその思想並びに孫文の後繼者であり、新支那建設の立役者たる汪兆銘及びその思想は、根本的には一貫してアジアのためのアジア新秩序を目ざすものであり、運命的に支那は日本との協力を必要とすることを認めてゐることがわかるのであつて、こゝから、今日の我國に課せられた使命たる東亞新秩序建設に支那を協力せしめることの意味もわかりまたそのために、當面の問題として中央政府の健全なる生長を助成しなくてはならぬ理由も理解されるであらう

女教師の記録

平野婦美子著 (文)

昭和一五、四 西村書店
四六判 四二二頁 二・〇〇

著者は、現在品川区第四日野小學校の訓導をしてゐる本書は、著者が今日まで女教師として體驗し、實施した教育記録である。

東洋的無

久松眞一著 (教)

昭和一四、一二 弘文堂書房
菊判 二九九頁 二・〇〇

本書は既に著者によつて個々に發表された、禪に關する論文十篇及び宗教論に關するもの六篇を輯録したものであるが、然しこれ等の論作を恒に一貫して流れてゐる問題がある。それは本書の序にもある通り、たゞ單に著者の生命の一部分たる知的な學問の問題ではなくして、著者にとつては正しく「死にもぐるひに直面する全一的な問題」であり、「全生命自體に課せられた生きた問題」なのである。乃ち著者は、この「いのちにかけての問

題」解明の道を、東西の先哲古聖の芳躅に覺めた結果、著者の所謂「東洋的無」と稱するものに、その落處を見出し得たといふのである。西洋思想に對する十分なる理解の上に立つて禪を中心とする東洋文化の特質を明らかにしたものである。

日清戦争と陸奥外交

(ラヂオ新書11)

深谷博治著 (文)

昭和一五、三 日本放送出版協會
小四六判 二四二頁 〇・五〇

本書は著者がラヂオ放送をした「陸奥宗光の蹇々録」の原稿を基とし、それを擴大して一書としたものである。先づ蹇々録の主題である日清戦争の史的意義を把握し、著者陸奥宗光の歴史人物を述べ、更に蹇々録の構成と成立と内容を明らかにし、最後に陸奥外交の本質と史的教訓とを説明してゐる。本書は單に「蹇々録」の解説をしたものでなく、日清戦争そのものの歴史的本質を闡明し、それを處理せる陸奥外交の本質を明らかにせんとしたものである。日清戦争は東亞新秩序建設の第一段階であり、

陸奥外交は今次事變に當り示唆する所大なるものがある

改文樂の研究

(創元選書40)

三宅周太郎著 (文)

昭和一五、三 創元社
四六判 三四九頁 一・五〇

本書は、上の卷、中の卷、下の卷の三部よりなり、上の卷を文樂物語、中の卷を文樂人形物語とし、各々の藝道に携はる人々の修養上の苦闘を物語り、一方、文樂の沿革、人形の起原に觸れてゐる。下の卷は、批評と研究で著者の文樂見物記である。この項に於いて、人形淨瑠璃と芝居とを比較研究して、文樂藝術の核心を説いてゐる。本書は、文樂や、歌舞伎研究者の良指導書であり、文樂藝術に精進する人々の修業の苦勞や、逸話、生活等物語つてゐる點、藝に生きる人々の眞剣な物語として、一般の人にすゝめたい。著者の研究的情熱も亦、讀者に深い感銘を與へるであらう。

五十音圖の歴史 山田孝雄著 (教)

773/6

昭和一三、九 寶文館
菊判 二二七頁 二・五〇

國語と五十音圖の關係は今更喋々する必要はない。五十音圖の歴史は、同時に國語學史を語り、國語史を端的に示してくれるものである。また、五十音圖は國民の生活の中に根を下してゐることは、いろは歌と同様に深いものであるが、しかしその成立及び歴史を知るものは殆んど無いと言つてもよい。本書はかゝる事情を憂へて、國民の常識として普及せしめたい上から、特に上梓されたもので、多くの圖版を收め、懇切に論述されてゐる。單に國語學、國文學、國語教育の道に携はる人々だけでなく、ひろく良識ある人にすゝめたい。

南洋の華僑 南洋協會編 (文)

昭和一五、四 南洋協會
菊判 一九〇頁 二・〇〇

本書は南洋華僑の重要性を一般國民に認識させたいとの念勵を以て、極めて簡易且つ通俗的にこの問題を解説

四

したものである。先づ華僑とは何ぞやの間に實際的立場から回答を與へ、南洋華僑の經濟的、社會的、政治的及び文化的生活の全面に互つて現状を述べ、各國の對華僑策、華僑と支那本國との政治的、經濟的關係を明かにし、更に今次支那事變に際しての南洋華僑の動向、最後に南洋華僑と日本との關係に言及してゐる。東亞經濟圈の確立に際し、我が南方政策もますます重要性を帯びて來るであらう今日、本書の如きものによつて南洋華僑についての充分なる研究と、支那本國に於ける經濟的、政治的勢力を認識する事は、東亞新秩序建設に邁進しつゝある日本國民にとつて極めて必要なことであらう。

巡禮 島崎藤村著 (文)

昭和一五、二 岩波書店
四六判 三四二頁 一・七〇

本書は、著者が南米アルゼンチンで開かれた、國際ベシ大会に出席した折の旅行記である。

國語の將來 (創元選書25)

柳田國男著 (教)

昭和一四、九 創元社
四六判 四〇六頁 一・五〇

本書は「私は行く行くこの日本語を以て、言ひたいことは何でも言ひ、書きたいことは何でも書け、しかも我が心をはつきりと、少しの曇りもなく且つ感動深く、相手に知らしめ得るやうにすることが本當の愛護だと思つてゐる」と國語の愛護を具體的に説かれる著者最近の講演の手控へが其の大部分で、「國語の將來」外八篇が収録されてゐる。本書は極めて平易な表現の中に、現在の國語事實を具體的に盛り、將來の國語についての展望を述べてゐる。

大宇宙の旅

ジョンズ著 村上忠敬譯 (文)

昭和一五、三 恒星社
四六判 三一三頁 二・八〇

著者はケンブリッジ大學の教授で現代一流の天文學物理學者として重きをなし、又一方難しい理論を平易に興

物の經濟はごうなるか 岡崎文勳著 (文)

昭和一五、四 朝日新聞社
四六判 一五五頁 〇・三五

新東亞建設の基礎工作たる經濟建設は國民全部の協力をまつてはじめて可能である。かゝる時、我が統制經濟

五

の過去、現在、未來についての客観的なる認識と、率直なる豫想とに對する要望は、國民各層を通じて普遍的である、と云ひ得よう。本書は從來の統制經濟文獻が餘りにもアカデミックなるに對し、商工省の物資調整官たる筆者がエキスパートとしての豊富な知識を縦横に駆使して平易に且つ親しみ深い對話形式によつて書かれたもので短篇よくかゝる渴望を醫するものとして官民待望の書と云はるべきである。

民謡覺書

(創元選書47) 柳田國男著 (文)

昭和一五、五 創元社
四六判 四一六頁 一・五〇

本書は、民謡覺書をはじめとして、鼻唄考、歌とうたげ、山歌のことなど其の他、全十五篇よりなる、民謡に關する研究論文集である。民謡の永い成長の歴史から、その本質、系統、分類の方法、その崩壊に移つてゆく姿に及んですべて直接民衆の心に觸れ、その生活を基調とした研究である。しかも例敘式表現によつた能文は、讀者になごやかな氣分を與へる。民謡研究者には多大の啓

示を與へ、その研究慾をそゝり、一般讀者にも、なつかしい親しみを與へる良書である。

概観維新史

文部省維新史料編纂事務局編 (教)

817/40

昭和一五、三 明治書院
菊判 八八一頁 三・八〇

本書は文部省維新史料編纂事務局が、紀元二千六百年の記念事業として、編纂したもので、明治維新の歴史は云ふまでもなく、今日の日本を理解する點に於いても、また當時の志士の熾烈な國家意識に目覺めた尊攘運動を反省する點に於ても、重要な意義を有するものである。しかも本書は根本資料を博搜し且つ最近の研究成果に基づいて記述され殊に各章節はそれ／＼緊密な聯繫を保ち暢達な筆致を以て一貫して維新史の主潮を把握してゐる一般知識階級及び學校圖書館等にすゝめたい。

細菌物語

B・b・b・メイル著 (文)
永野爲武、谷田專治譯

545/5

本書は、細菌學に關する一般向の書であつて、特に細菌のうちでも、人間生活と密接な關係のあるものを選んで書かれてゐる。即ち細菌とは如何なるものであるかより始り塵埃空氣、下水及び飲料水中の細菌、ミルクや家庭内の細菌、醸造・工業並びに戰爭に關する細菌、病原菌に對する抵抗力傳染及び免疫につきその他急性慢性の傳染病の病原體について興味深く大衆にも分り易く、しかも十分科學的に書かれてゐる。吾々は本書により眼に見えない微生物が如何に人間生活を可能ならしめてゐるかと共に又生命の破壊者であることを知る事が出来る。

(文化叢書6)

昭和一五、三 青木書店
四六判 三六二頁 一・四〇

歴史的現實

田邊元述 (文)

649/34

昭和一五、六 岩波書店
四六判 一〇九頁 〇・六〇

本書は田邊教授が京都帝大の學生のためにした科外講義の速記である。教授によれば歴史的現實の中心をなすものは、自由に活動せんとする個人とそれを過去からの

傳統と習慣によつて制約統制せんとする閉鎖社會としての種族との關係にある。この方向を逆にする個人と種族とが辨證法的に調和統一された具體的社會が國家である國家にあつては種族は統制しつゝも個人の自由な活動を許し、この個人の自由な活動を通してその閉鎖性から人類開放性に至るまで高まり行くのである。國家こそ中核的な歴史的現實として當爲の對象となるべき社會であつて、日本はこの時に當り正に當爲的國家の構造を具有せるものとして新しい世界史の舞臺に登場すべき時期であるとしたもので、我國思想界の最高峰の一つである田邊哲學の入門書としてすゝめたい。

醫學の倫理

——ヒューマニズムと醫學——

オカンツイーク著
三浦岱榮譯 (文)

昭和一五、三 理想社出版部
四六判 一七八頁 一・〇〇

本書は醫の本質、醫療本來の目的の考察より出發し、個人醫學の維持、集團醫學の合理創造、組織化された職

業に於ける醫師組合主義等を説く。ひとり佛蘭西醫學に
ついでの問題たるばかりでなく、醫師の經濟生活の逼迫
に根ざしてゐる道徳的頹廢や眼まぐるしい社會情勢の變
轉に關聯し、開業醫制度の再檢討や醫藥國營などが問題
にされるやうな現代の危機を同様に呼吸してゐる我が國
醫師にも直接觸れるものであつて、醫人は勿論一般人に
も何等かの意味で貢獻するであらう。

新税問答 朝日新聞社編 (文)

273/60

昭和一五、七 朝日新聞社
四六判 五一七頁 一・七〇

本書は、さきに朝日新聞紙上に連載された「新税を當
局に聴く」を一冊にまとめたものである。今次の新税は
いふまでもなく、その目的内容に於てもわが税制上劃期
的のもので、國民生活上は固より、事業經營の上にも深
い關係を有つものである。従つて國民は誰でもこの内容
を知悉してゐなければならぬ。この意味に於てその指
導と體系とに關し正確な説明が一般に傳へられることが
望ましい。本書はむづかしい税の解説を、問答式に極め

て平易に且つ詳細に互つて書かれたもので、時局下國策
遂行に邁進しつゝあるわが國民に親しき税書としては非
一讀さるべきである。

機械化兵器讀本 吉田豊彦著 (文)

905/6

昭和一五、八 東京日日新聞社
菊判 二七一頁 一・三〇

世界各國で軍機械化の充實が競はれてゐる時本書は機
械化が如何に必要であり、急務であり威力あるものであ
るかや國民全體に深刻に認識せしめ、それによつて機械
化部隊建設の促進を企てると共に、全國青少年達がこの
盡忠報國の猛訓練に勇躍して馳せ參ぜんことを熱望して
書かれたもので、戦争の歴史的發展、世界各國の戦車裝
甲車、世界の代表的合戦に於ける作戦上の用法及び批評、
戦車防禦陣の構造、肉薄防禦法、戦車運用の日本化の必
要等が多く、の圖解等を以て興味深く説明されてゐる。

日本近代外交史 (日本歴史全書13)

八

丸山國雄著 (文)

810/21

昭和一五、八 三笠書房
菊半裁判 二八四頁 〇・九五

本書は明治政府の成立から日韓併合に至るまでの日本
外交の發展を敘説したものである。本書の特色は琉球、
臺灣、朝鮮問題を中心に日清戦争への發展經過を三國干
渉及び條約改正の經過を詳細に記述して以て當時の國民
の外交に對する熱意を鮮明にした處に存する。この外日
英同盟の成立及びその後の發展や日露戦役に至る日露關
係の發展等が記述されてゐる。史實は正確にして讀み易
く簡潔にして要を得てをり明治外交の輪郭を知る上に手
輕な讀物である。

日本郷土學 小田内通敏著 (文)

861/36

昭和一五、六 日本評論社
菊判 三四四頁 三・五〇

著者は永年、聚落地理や郷土地理等の研究に従事して
きた地理學者である。本書は「日本郷土學」樹立の爲には
郷土の科學的研究が如何に重要であるかを説いたもので

全巻を通じて、郷土研究者の心構へやプラン等に直接參
考となるべき研究の實例や郷土愛を物語る幾多の事例を
豊富に包含してゐる。郷土研究の實例として「わが郷土」
(秋田縣)を、「郷土と教育」と題して小學校、青年學校、
師範學校等の郷土教育について著者の見聞や見解を、「
新しい郷土」として滿洲に於ける若き開拓者の生活や滿
鐵の事蹟を述べ、滿洲への居住と認識について資するこ
ころがある。郷土の正しい認識が要望せらるる今日、本
書は地理研究者のみならず一般人にも郷土研究のよい參
考書たるべきであらう。

道元禪師之行 秋山範二著 (文)

621/10

昭和一五、五 山喜房佛書林
四六判 三〇一頁 一・八〇

本書は著者の放送講本「正法眼藏五夕談」(昭和十四年
十二月二十七日―三十一日)その他十六篇の隨筆論篇よ
りなる。既に標題が示す様に、全篇を通じて禪が行住坐
臥、日常茶飯の中にあり、所謂、行即佛即行なる趣旨を
特に明かにせんとしてゐる。同時に平明暢達なる行文に

よつて、難解な禪の思想を解説してゐる。

日本の外交 伊藤述史著 (文)

366/25

昭和一五、七 三省堂
四六判 一四二頁 一・〇〇

本書は外交に關する國民常識を養ふ上に有益なる外交概論であつて、その主なる内容は先づ第一に外交の意義を鮮明にし、外交に従事する外交官の職務を論じ、更に外交と軍事、經濟、文化との關係を論述してゐる。所論も極めて平易簡明であつて、外交問題の重要な折一般國民にすゝめたい。

親鸞聖人に映ぜる 聖徳太子 (教學新書5)

金子大榮著 (文)

843/136

昭和一四、一一 日黒書店
新四六判 一六一頁 〇・五〇

本書は「親鸞上人に映ぜる聖徳太子」と「道理と智慧」との二篇より成る。前編では太子の御精神が佛教の精髓を採られたものであつて、就中、十七條憲法に於ては和の

精神を高揚されたものであるが、親鸞の如きは最も深く觀音化身としての太子を鑽仰し奉つたものである。後篇に於ては佛教に所謂道理の觀念が自然法爾としてある道理をさすものであつて、この道理に體達する道は、單なる知識ではなくして、佛教に云ふ智慧に外ならぬ點を説いてゐる。

スエズ運河 (岩波新書70)

シヨンフィールド著 (文)

174/7

昭和一五、七 岩波書店
小四六判 一八七頁 〇・五〇

本書はスエズ運河について歴史的、通商的、技術的並びに政治的情報を提供することを目的として書かれたものであつて、全篇三部から成り立つてゐる。現在英伊の争覇點であるスエズを研究する上から一讀に價するものと思ふ。

米國の極東政策 A.W.グリスウオールド著 (文)

富強日本協會研究部抄譯 (文) 377/36

昭和一五、九 富強日本協會
四六判 一六八頁 一・〇〇

本書は米國エール大學助教授A.W.グリスウオールド氏の「米國の極東政策」の抄譯である。一八九八年の米西戦争より最近四十年に亘る米國の一貫せる極東政策を明らかにしたものである。最近四十年の米國極東政策の歴史は、今後の對米政策を確立する上に参考となるところが大きい。史實は正確であつて、その言ふところは頗る明快であり、讀み易い。

現代支那史 (教養文庫58)

小竹文夫著 (文)

995.2/16

昭和一五、六 弘文堂書房
小四六判 一五四頁 〇・五〇

著者は東亞同文書院で現代支那史を講じてゐるので、かゝる書を著すには最も適當な人物である。内容は中華民國成立以後の支那の歴史的敘述で、極めて要領よく明快な調子で筆をとつてゐる。而も最後に、支那で出版された參考文獻も掲げてあるので、現代支那に關する知

識を一般國民に與へるものとして、最も簡明な優秀なものとして廣くお奨めしたい。

亞細亞史概説 中世篇 (歴史學叢書)

守屋美都雄編 (文)

996.1/4

昭和一五、八 螢雪書院
四六判 四三二頁 二・五〇

本書は歴史學叢書の亞細亞研究篇の一冊で、編者守屋氏を始め東大東洋史料出身四氏の共同執筆にかゝるもの内容は秦の統一より明の滅亡に至る迄の支那を中心とした約千九百年間の亞細亞の歴史である。従來の同種の書と異なり、その冒頭に「亞細亞の概観」なる章を設けてあり、又多くの圖版を挿入し、最近の學界の研究をも取入れてあり、且つ參考文獻、アジア民族興亡表及び研究資料をも附してある。殊に敘述に熱があり、平易であつて、一般人の支那に對する歴史的認識を深めるために是非推薦したい。

青年の心理 牛島義友著 (文)

昭和一五、七 巖 松 堂
菊判 二八一頁 二・八〇

600/16

本書は、單なる外國の學者の學說紹介に陥ることなく、独自の觀點から青年の全生活を見直して、そこから青年の心理を捉へたもの。第一篇序論では青年期研究の方法論を述べ、精神構造のメタモルフォーゼの問題から主観と客観との展回關係を取上げ、かゝる精神發展過程を生活辨證法と名づけ、この生活辨證法を指導概念として青年期研究を進める。第二編では自我意識を考察し、その發生、昂揚、分化、實現の問題が取上げられ、こゝで、反抗・感情の現象、藝術、宗教、哲學、科學等の理念の發達、職業の問題が詳述される。第三編では社會意識の再出として少年期に完成した社會性が崩壊して孤立化する現象を取上げ、次に新らしく出發し直した社會性は自己と共鳴する他の精神を追求するが、このエロスの精神を問題とし、最後にその完成された姿としての社會生活、即ち結婚、政治生活に進み行く過程を考へる。本書は青年教育指導者向として好適である。

戰記文學 (日本文學大系第九卷)

五十嵐力著 (教)

昭和一四、八 河 出 書 房
四六判 二三七頁 一・二〇

711/12

我が國戰記文學の芽生よりその發達過程を系統的に解説し、批判し、各戰記の特色、文脈構想の妙味等を審さに説いてゐる。本書に依つて我が國戰記文學の史的發達の経路を窺ふことが出来ると同時に、行届いた解説と引用例文に依つて、戰記文學の持つ美と我が國武人の心意氣に直接觸れることが出来る。行間多少著者の考へも加つてゐるやうであるが、文章暢達で學生、一般讀者階級に好適である。

若きドイツは鍛へる―ドイツ青少年の國防教育―

ヘルムート・シュテルレヒト著 (文)
日本青年外交協會研究部譯 692/24

昭和一五、八 日本青年外交協會
四六判 二三五頁 一・五〇

本書はドイツの青年指導者ヘルムート・シュテルレヒト

ト博士の青少年訓練の目的と實際を解説したものである。第二次歐洲大戰に隣り間にポーランド、デンマーク、ベルギー、オランダ、フランス等を電撃的にたゞきつけたドイツの輝かしい戰勝のかげに、青少年訓練に血みどろに奮闘して來た努力のあることを見逃してはならない。

ドイツに於ては教育の本質は勇氣への教育であり、不屈不撓の精神、更に進んでは戰鬪の精神を涵養し、個人主義の教育を排し、協同一致の集團教育にあることを鮮明してゐる。軍隊生活を卒へた退役兵の訓練にも説き及んでゐるので、國防國家體制確立の緊要なる時、青年及び青年指導者にお奨めしたい。

傷める葦 邑樂慎一著 (文)

昭和一五、三 山 雅 房
四六判 一九一頁 一・〇〇

著者は癩療養所に勤務する青年癩醫である。本書は癩患者がその身に負はされてゐる肉體的、精神的の深い苦惱と人間本來の生への欲求との間の矛盾に立ちながら時に社會にすねる如きことがあつても、暖かい人の心にふ

れて本然に目覺め、苛酷な運命に堪へつ、自らの人生に歩んで行く嚴肅な姿を目に映する儘に書き記したものである。

教育紙芝居講座 松永健哉著 (文)

昭和一五、九 元 字 館
四六判 二二七頁 一・三〇

本書は著者が街頭の卑俗な紙芝居に對して、日本教育紙芝居協會を創立し、教育紙芝居の普及に専念した経験から、紙芝居の理論及び技術を體系的に纏めて一講座としたものである。

間宮林藏 佐々木千之著 (文)

昭和一五、九 至 友 社
四六判 三四八頁 二・〇〇

本書は間宮海峽の發見者間宮林藏の生涯を描いた傳記小説である。

南洋日本町の研究 岩生成一著 (教)

995.5/2

昭和一五、一 南亞細亞文化研究所
菊判 三六七頁 四・〇〇

近世初期の日本人の發展は從來山田長政などの著名な人物の個人的事蹟を主とし、僅かな國內史料によつて断片的に研究されてつたに過ぎないが、著者はこの程度に満足せず、幾多の困難を克服して、内地は固より南洋各地の文書館、圖書館を歴訪して、新史料の探求に努め、よく日本人の南洋發展の全貌を明らかにすることを得た著者もいふ如く、南洋日本町の研究は日本人の南洋發展史の一部に過ぎないが、數の大なること、集團的なること等において、その樞軸をなしてつたことは疑ふべくもない。當時何等の保護も奨励もなきに拘らず、堂々東西諸國民の角逐場に活躍した我等先人の行動は、今日の國民に大きな感激を與へる。

日本科學史要 (教養文庫36)

富成喜馬平著 (教)

649/37

日本の科學史は今まで殆んど顧られてゐなかつた。そのことは必ずしも過去において日本の科學史は語るべきものを持たなかつたためではなく、むしろ自給自足の經濟の上に立ち、世襲制度のため職業の選擇の自由を持たず、傳統の墨守せられる封建制度の下にあつて、幾多の注目すべき業績を残し、明治以降の著るしい科學の發展の素地を十分に培つてゐたのであり、たゞ日本科學史が研究されてゐなかつただけのことである。著者はこの點を深く遺憾とし、日本科學史を廣い領域に互つて考察し、これを簡潔に敘述したものが本書である。

ナチス獨逸の解剖 森川覺三著 (文)

377/42

昭和一五、九 コロナ社
四六判 三九九頁 二・五〇

著者は、ナチスが政權を獲得する前から獨逸に滞在してつたので、ナチスの活動を目のあたりに見聞歸朝の上、一九三九年再度渡獨しナチス政權下のドイツの實相

を視察して最近歸られた人である。前半はヒトラーの生ひ立ちからその政權獲得までを後半はナチス獨逸の現狀を述べてゐる。全體を通じて大獨逸建設に邁進してゐる人間ヒトラーの性格をよく描いてゐる。また二百枚程の寫真も入つてゐるので、實に興味深く讀むことが出来る。

正法眼藏釋意 橋田邦彦述 (教)

621/9

昭和一四、一二—一五、七 山喜房佛書林
菊判 第一卷 二一六頁、二・〇〇
第二卷 三八六頁、三・三〇

本書は第一卷と第二卷の二冊であるが、第一卷は正法眼藏解説、道元禪師小傳、正法眼藏現成公案、現成公案釋意の四編に分ち、詳述、第二卷は益々註釋書としての價値を發揮してゐるが、その内容は身心學道、行佛威儀、正法眼藏側面觀の三篇に分つて説いてある。

帝室制度史 帝國學士院編 (文)

384/2

昭和一二、三—一五、一一 ヘルム社
菊判 第一卷 三五六頁、二・五〇
第二卷 七二七頁、四・五〇

本書は今までに四卷刊行されてゐて、文部省編纂「國體の本義」參考書として有益なものである。學校教職員にお奨めする。

日本茶道史 (創元選書57)

西堀一三著 (教)

489/4

昭和一五、九 創元社
四六判 二五五頁 一・四〇

本書は主として社會思潮と連關して茶の湯の精神の發生、展開を平明懇切に敘述してゐる。教養に資する良書としてお奨めしたい。

支那の家族制 諸橋轍次著 (教)

昭和一五、五 大修館

998.1/15

本書は支那の家族制を詳細に婚姻、喪失、祭祀、宗廟、名字諱諱、親屬、姓氏の七篇に分つて説いてゐる。近時

支那の研究書の續出する中で、この方面を深く研究した
勞作である。

日本美術

(教養文庫52) 植田壽藏著 (教) 480/22

昭和一五、五 弘文堂書房
小四六判 一七八頁 〇・五〇

我が國古代神社建築の一つの様式を示す住吉神社の建
築の中に遠く發展する我が國の美術精神を述べ、以下建
築、彫刻、繪畫の三章に分けて日本の美術を詳細に述べ
てゐる。

法隆寺

(創元選書65) 伊東忠太著 (教) 629/3

昭和一五、一一 創元社
四六判 二〇四頁 一・四〇

著者は初め法隆寺を大陸建築の真寫に外ならないと考
へてをつたが、次第に研究するに連れて、それはほんの
一部に過ぎないもので、その精神は全く日本的であり、日
本の創意によつて出來たものと確信するやうになつた。

さういふ點から法隆寺を各方面から述べてゐる。法隆寺
の文化史上に占める地位はまことに大であり、この研究
は各方面で試みられて幾多の成果をあげてゐるが、本書
の研究はまた獨自なものがある。

日本國民教育史

乙竹岩造著 (教) 691/10

昭和一五、九 目黒書房
菊判 四二二頁 四・〇〇

本書は光輝ある二千六百年と、教育勅語發五十年
を記念して出版されたもので、第一篇は古代の教育につ
いて述べ、以下第二篇中世の教育、第三篇近世の教育、
第四篇最近世の教育の各篇に分けて、それ／＼詳述して
ゐる。

芭蕉俳句の解釋と鑑賞

志田義秀著 (教)

昭和一五、一〇 至文堂
四六判 三三八頁 三・〇〇

714/90

本書は芭蕉の有名な俳句五十句について、解釋と鑑賞
を試みたものである。その特色とする所は、たゞ文獻に
よつて研究したといふ點ではなく、著者の解釋と鑑賞に
あるのであり、日本の詩歌を愛好する人々にお薦めした
い良書である。

禪と日本文化

(岩波新書75)

鈴木大拙著
北川桃雄譯 (教)

昭和一五、九 岩波書店
小四六判 一九六頁 〇・五〇

625/8

「禪の豫備知識」「禪と美術」「禪と武士」「禪と劍道」「禪
と茶道」「禪と俳句」「禪と儒教」の七章からなつてゐる。
第一章では禪の一般的概念を與へてをり、次の「禪と美
術」では繪畫、和歌などの實例をあげて説明してゐる。
また「禪と武士」の所では、鎌倉武士との關係について述
べ、「禪と劍道」においては、西洋の劍との差を述べてゐ
る。以下茶道と俳句及び儒教との章で、それらとの關係
を詳述してゐる。元來西洋人のために書かれた書物であ
るが、翻譯されてみると、また新しい視角があり、まこ

日本文學の環境

(日本文學大系第五卷)

高木市之助著 (教)

昭和一三、一二 河出書房
四六判 一九〇頁 一・二〇

711/13

とに興味深い。述べ方も平易なので、全然禪の知識のな
い者にもその概念を得ることが出来る。

美の傳統

岡崎義惠著 (教) 647/13

昭和一五、九 弘文堂書房
菊判 五二三頁 四・五〇

本書は「美の日本的形態」「詩歌と美術」「傳統と古典」の
三部からなつてをり、著者は「美の日本的形態」の章にお
いて、日本の美的諸相を精しく述べ、また考證や引例も

かなり多く行つてゐる。次の「詩歌と美術」の章では、日本の美を特に詩歌に求めて色々の考察を行つてをり、「傳統と古典」の章には、著者がかつて新聞や雑誌に發表した評論を多く收めてゐる。

神社讀本

(修訂版)

全國神職會編 (文)

614/6

昭和一六、二 日本電報通信社

菊判 二四八頁 一・〇〇

國家の宗祀であり、國體の顯現である神社の意義を闡明し、大東亞共榮圈確立の指導理念たる皇道精神の眞姿を宣揚して、廣く皇國臣道の規範たるべき公民教育の資とする目的を以て編纂せられたもの。「敬神の大義」「肇國の由來」「國體の本義」「國體と祭祀」「國家と神社」「神社の祭祀」「神社と郷土」「神社と氏子」の八章に分けて記述。なほ巻頭に神祇に關する神勅、詔勅を謹掲。附録として神宮及官國幣社一覽、神社參拜唱歌、家庭祭祀の行事作法を收録。一般國民の斯界を知る良書として推薦したい。

改訂 兒童心理學 青木誠四郎著 (文)

昭和一五、一〇 賢文館

菊判 四一六頁

三・八〇

本書は世のいはゆる研究報告書ではなく、兒童教育・兒童保護の問題を解決出来る兒童心理學を、明快な理論と整然とした體系の下に述べた教育的兒童心理學である兒童の情緒・行動・知的生活、その他の問題を興味深く説いてゐる。

吉田松陰

石川謙 武田勘治共著 (文)

843/137

昭和一五、一〇 三教書院

四六判 二二一頁 〇・六〇

吉田松陰が幕末多事の時に際會して、諸國の志士と交はり、時勢を達觀し、また松下村塾を開いて青少年の訓育に努め、遂に安政の大獄に坐してその一生を終るに至つた経緯を簡明に、また興味深く述べてゐる。

ナチス女性の生活 アン・マリー・キープラー著 (文)

昭和一五、一一 生活社

四六判 一六二頁 一・二〇

本書は國家の進路をきり開く男性のよき協力者としてようとする眞剣なドイツの婦人に對する組織的活動が如何に行はれてゐるかを、花嫁學校・隣組など數十項目に分けて紹介してゐる。戦時下、我が國婦人に一讀をお奨めしたい良書である。

四六判 二七八頁 〇・八〇

本書は、極めて要領よく、分り易く隣組、常會について、その意義沿革、目的、常會の開き方、實施上の注意等の基礎知識となるべき事柄を記述したもので、論旨概ね正鵠を射てゐる。隣組、常會の指導者、司會者の好参考書。

病氣の正體

(ラヂオ新書32) 緒方富雄著 (文)

昭和一五、一一 日本放送出版協會

小四六判 一五五頁 〇・五〇

これは病氣とはどんなものか、近代醫學は病氣をどう考へてゐるか、といつた病氣についての一番土臺となる問題を、極くわかり易く説明したものである。なほ末尾に「蘭學者のはなし」が収録してある。

村塾建設の記

松田甚次郎著 (文)

昭和一六、一 實業之日本社

四六判 三〇一頁 一・五〇

盛岡高農卒業後、山形の一寒村に一介の農民として土と取組んだ生活をしてゐる松田甚次郎氏の最上共働村塾再建の健闘と塾生活を描いた尊い體驗録。現下農村の一般青年及びその指導者の好伴侶。

隣組と常會

(常會運営の基礎知識)

鈴木嘉一著 (文)

昭和一五、一二 誠文堂新光社

293/20

殉職記録

赤十字旗

矢木澤健著 (文)

昭和一五、一二 興風館

四六判 二五七頁 一・〇〇

本書は、今次事變に上海方面に従軍し、コレラ病棟に

勤務中、感染して殉職した竹内喜代子なる赤十字の一看護婦の生涯を描いたもの。

特異児童 戸川行男著 (文)

昭和一五、一二 目黒書店
四六判 二五二頁 二・〇〇

本書は、著者が実際に八幡學園において特異児童と起居し、その生活や性情を心理學的な眼で精細に觀察した事柄及び八幡學園の教育方針などを紹介したもの。

物質の神祕 (創元科學叢書1)

インフェルト著 石橋榮譯 (文)
昭和一五、一一 創元社
四六判 二八二頁 一・八〇

著者は曾てアインシュタインと共に「物理學は如何にして創められたか」を著した人、本書では、先づ物理學における考へ方を述べ、輻射、物質、原子核、物質と輻射等に就いて説明、最後にプロローグ、シュレーディン

ガー、ハイゼンベルグ、ディラック等の新説を簡単に記述してゐる。全卷多くの解説圖や比喩を用ゐる極めて懇切丁寧な説明されてをり、近代物理學の重要、困難な問題をよく碎いてその輪廓を把握できる様に書かれてをるが然し何といつても或る程度の科學的教養を前提としてゐる點で學生及び知識人向のものとして推薦する。

日本語の問題

——國語問題と國語教育——

石黒修著 (文)
昭和一五、一二 修文館
四六判 二七二頁 二・三〇

日本語の不自由或ひは混亂について説明し、現在の國語問題がどのやうであり、今後どう解決さるべきかといつたことを論じてある。

ノ口高地 草葉榮著 (文)

昭和一五、一二 鱒書房
四六判 三三〇頁 一・五〇

ものを補正し、單行の書として上梓したもの。

日本の言葉 (創元選書67) 新村出著 (教)

昭和一五、一一 創元社
四六判 三五二頁 一・六〇

本書は、日本人と南洋、日本語かアイヌ語か、天平時代の國語など二十六篇の語源の研究論文を収めてゐる。

能樂研究 能勢朝次著 (教)

昭和一五、一一 講曲界發行所
四六判 三一五頁 二・五〇

本書は既に諸雜誌に發表せられた論文を輯めて、單行本として上梓したものである。内容は能樂研究法を始め十五篇が收められてゐる。

蘭印と日本 松本忠雄著 (文)

昭和一五、一二 ダイアモンド社
四六判 二二二頁 一・五〇

本書は砲兵中隊長としてノモンハンに戦闘に参加し、終始第一線にあつてあらゆる戦闘場面に遭遇し、困苦缺乏に耐へつゝ勇戦した著者の實戦記で、その巧みな文章はよくノモンハン戦の實情を傳へてをり、この種の書物中出色のものである。

人間と言葉 稻富榮次郎著 (教)

昭和一五、一二 目黒書店
菊判 一八八頁 一・八〇

哲學を専門とする著者が、自身の思索の體驗から生み出したもので、言語の構造、働きの基礎的要件について、専門書のやうな煩雜な説明を避け、最も根幹たる點についてのみ論述した。

古事記概説 山田孝雄著 (教)

昭和一五、一一 中央公論社
菊判 二〇三頁 二・五〇

昭和十四年三月、著者が文部省内の教育研究會において講述したものの筆記で、すでに文部時報に掲載された

本書は著者が昨年秋蘭領印度に渡つて、親しく現地に臨みその實情を研究調査して、日本と蘭印の通商、經濟關係を述べ、蘭印問題に對して示唆と反省を與へ、東亞共榮の具現策を力説したものである。

現代印度論 伊東敬著 (文)

990.5
8

昭和一五、一二 オリオン社
四六判 二八五頁 一・五〇

本書は八篇からなり、主として印度の國民運動を解説したもので、第一篇、第二篇は印度の地勢、氣象、面積などについて述べ、第三篇においては國民會議黨及び全印回教徒聯盟について論じ、第四篇以下においては第一次大戰より今次大戰に至るまでの國民運動の経過を述べ、第八篇においては印度獨立運動の將來を論じてゐる。印度の動向は東亞共榮圈確立上重要なに鑑みて、一讀を一般國民に奨めたい。

一一一

高橋龜吉著 (文)

208
81

昭和一五、一二 大日本雄辯會講談社
四六判 三〇六頁 一・六〇

事變開始以來今日に至る迄の高橋經濟研究所の浩澗な業績のエッセンスを、國民の誰もが近づきうる平易かつ簡単な讀物として、所長自らが親しく物語つたのである。

明治天皇御製謹抄 (改訂版)

花田大五郎著 (文)

714
89

昭和一五、一一 子文書房
菊半裁判 一六四頁 〇・五〇

本書は和歌山高等商業學校に於て著者が卒業期の學生に御製の一部を謹解したものを、更に校訂して解釋と感想を添へ、教育報國の一端にしようと編まれたもので、日夜奉誦し實踐躬行すべき約七十首の御製を謹解してゐる。

戰時經濟と新經濟體制

愛育のこゝろ

——こどもの保健と教養——

愛育會編 (文)

昭和一五、一二 三省堂
四六判 二九四頁 一・〇〇

愛育會關係の醫師、心理學者などが分擔執筆したもの。

近代支那と英吉利 (歴史學叢書)

百瀬弘共著 (文)

995.2
21

昭和一五、一二 螢雪書院
四六判 三九〇頁 二・五〇

英國の對支活動を政治、經濟、文化の三方面から觀察し、その活動により如何に支那が推移して行つたかを述べたもので、現代の叙述は簡單であるが、著者の非常に綿密な觀察と透徹な理論を以て極めて平易に叙述されてゐる。支那を現状の如き立場に至らしめたものは歐米諸國の活動であり、その尤なるものとしての英吉利の活動は是非共我々の知らねばならぬ事柄であらう。

國語學史 時枝誠記著 (教)

771
4

昭和一五、一二 岩波書店
菊判 二六七頁 二・三〇
本書は曾て岩波講座「日本文學」に收められたものを増補訂正したものであつて、第一部序説、第二部研究史からなつてゐる。

平田篤胤 山田孝雄著 (教)

843
138

昭和一五、一二 實文館
菊判 三四六頁 二・〇〇

本書は國學の學統を繼いで今日四大人の一人として仰がれる平田篤胤の業績を世に紹介する目的を以て編まれたものである。

興亞國民東洋史 有高巖著 (教)

995.1
13

昭和一五、一一 同文書院
菊判 四八六頁 三・八〇

本書は序説、本論、外論、附録の四部よりなつてをり、序説に於ては東洋の語義、東洋史の意義などを述べ、本

一一三

論に於ては古代より現代に至る迄を五編に分つて、各國民族の興亡を述べてゐる。

教學局選獎圖書

科學概論 田邊元著

大正七、九 岩波書店 649/5
 菊判 三六六頁 二・八〇

東洋美學 金原省吾著

昭和七、一〇 古今書院 647/10
 菊判 二四七頁 二・〇〇

空月集 橋田邦彦著

昭和一一、一一 岩波書店 040/20
 四六判 五八〇頁 二・五〇

文化哲學の諸問題

シュエプランガー著 小塚新一郎譯
 昭和一二、一〇 岩波書店 640/24
 菊判 二七六頁 二・〇〇

現代文化と國民教育

シュエプランガー著 小塚新一郎譯
 昭和一二、三 岩波書店 690/10
 菊判 三〇六頁 二・二〇

敬語法の研究

山田孝雄著
 昭和一二、三 寶文館 772/9
 菊判 四〇八頁 三・五〇

萬物流轉 平泉澄著

昭和一二、一二 至文堂 809/3
 菊判 二五九頁 二・〇〇

歷史的世界 高坂正顯著

——現象學的試論——
 昭和一二、一〇 岩波書店 801/7
 菊判 三九二頁 二・七〇

生活經濟學研究

宮田喜代藏著
 昭和一二、一〇 日本評論社 210/149
 菊判 三二三頁 二・五〇

勤勞教育の理論と方法 大倉邦彦著 699/17

昭和一三、一〇 三省堂
四六判 二二八頁 一・三〇

國語尊重の根本義 山田孝雄著 770/5

昭和一三、一一 白水社
菊判 二七四頁 二・〇〇

人格と人類性 和辻哲郎著 670/30

昭和一三、一〇 岩波書店
菊判 二二〇頁 一・五〇

文化類型學(叢書文庫4) 高山岩男著 291/19

昭和一四、二 弘文堂書房
三五判 二四九頁 〇・五〇

訂改 萬葉讀本 佐々木信綱著 714/74

昭和一三、一一 日本評論社
菊判 二八二頁 一・八〇

日本文學論 神話篇 志田延義著 605/9

昭和一四、二 日本問題研究所
菊判 二〇三頁 一・八〇

辨證法的世界の倫理 柳田謙十郎著 670/32

昭和一四、二 岩波書店
菊判 四〇三頁 三・〇〇

日本教育原論 福島政雄著 691/9

昭和一四、四 藤井書店
菊判 二九〇頁 二・八〇

佛教の諸問題 金子大榮著

昭和九、九 岩波書店
菊判 四七五頁 二・八〇

知と行 紀平正美著 649/21

昭和一三、一二 弘文堂書房

菊判 五〇二頁 三・〇〇

國語學新講 東條操著 770/6

昭和一二、五 刀江書院
新菊判 四五二頁 三・五〇

正法眼藏の哲學私觀 田邊元著 621/8

昭和一四、五 岩波書店
四六判 一〇四頁 〇・九〇

國語教育の新領域 西尾實著 770/9

昭和一四、九 岩波書店
四六判 一六七頁 〇・八〇

幽玄とあはれ 大西克禮著 647/11

昭和一二、六 岩波書店
菊判 二五九頁 二・三〇

二六

勝鬘經講讚 佐伯定胤講述 624/22

昭和一四、四 渾沌社出版部
菊判 三六六頁 二・五〇

日支交渉史研究 秋山謙藏著 995.2/4

昭和一四、四 岩波書店
四六倍判 六六三頁 七・〇〇

近世日本の儒學 徳川公繼宗七十年編 672/58

昭和一四、八 岩波書店
菊判 一一四九頁 七・五〇

國語學史要 山田孝雄著

昭和一〇、五 岩波書店
小四六判 三〇〇頁 〇・八〇

二七

後醍醐天皇奉賛論文集 建武義會編 816/18

昭和一四、九 至 文 堂
菊判 二四八頁 一・八〇

東洋的無 久松真一著

昭和一四、一二 弘文堂書房
菊判 二九九頁 二・〇〇

日本文藝の様式 岡崎義惠著

昭和一四、九 岩波書店
菊判 七二二頁 四・二〇

國語の將來 (創元選書25) 柳田國男著

昭和一四、九 創元社
四六判 四〇六頁 一・五〇

論語之研究 武内義雄著

二八

昭和一四、一二 岩波書店
菊判 三六二頁 三・五〇

五十音圖の歴史 山田孝雄著

昭和一三、九 寶文館
菊判 二二七頁 二・五〇

風雅論 大西克禮著

(「さび」の研究)
昭和一五、五 岩波書店
菊判 三三二頁 三・二〇

印度古代精神史 金倉圓照著

昭和一四、一 岩波書店
菊判 四六六頁 三・六〇

國語の中に於ける漢語の研究

山田孝雄著
昭和一五、四 寶文館
770/7

空と辨證法 山口諭助著

菊判 五三八頁 四・八〇
昭和一四、一一 理想社出版部
菊判 二六九頁 二・五〇

正法眼藏釋意 第一、二卷 橋田邦彦述

昭和一四、一二—一五、七 山喜房佛書林 菊判
第一卷二一六頁、二・〇〇 第二卷三八六頁、三・三〇

神と神を祭る者との文學 (改訂三版)

(上代文學の研究第一編) 武田祐吉著 711/2

昭和一五、八 古今書院
四六判 二九八頁 二・三〇

宗教哲學序論 波多野精一著

昭和一五、五 岩波書店
菊判 二〇八頁 二・二〇

日本佛教史觀 金子大榮著

622/16

概観維新史 維新史料編纂事務局編

昭和一五、三 明治書院
菊判 八八一頁 三・八〇

戰記文學 五十嵐力著

(日本文學大系第九卷) 昭和一四、八 河出書房
四六判 二二七頁 一・二〇

南洋日本町の研究 岩生成一著

昭和一五、一 南亞細亞文化研究所
菊判 三六七頁 四・〇〇

日本科學史要 富成喜馬平著

(教養文庫36) 昭和一四、一二 弘文堂書房
小四六判 一六九頁 〇・五〇

二九

日本茶道史 西堀二三著

(創元選書57) 昭和一五、九 創元社 489/4
四六判 二五五頁 一・四〇

支那の家族制 諸橋轍次著

昭和一五、五 大修館 998.1/15
菊判 五〇六頁 四・五〇

日本美術

(教養文庫52) 植田壽藏著

昭和一五、五 弘文堂書房 480/22
小四六判 一七八頁 〇・五〇

日本文學の環境

高木市之助著

(日本文學大系第五卷) 昭和一三、一二 河出書房 711/13
四六判 一九〇頁 一・二〇

法隆寺

(創元選書65) 伊東忠太著

昭和一五、一一 創元社 629/3

日本國民教育史 乙竹岩造著

四六判 二〇四頁 一・四〇
昭和一五、九 目黒書店 691/10
菊判 四一二頁 四・〇〇

芭蕉俳句の解釋と鑑賞

志田義秀著 714/90

昭和一五、一〇 至文堂 3・〇〇
四六判 三三八頁

美の傳統

岡崎義惠著

昭和一五、九 弘文堂書房 647/13
菊判 五二三頁 四・五〇

禪と日本文化

鈴木大拙著 北川桃雄譯

(岩波文庫75) 昭和一五、九 岩波書店 625/8
小四六判 一九六頁 〇・五〇

人間と言葉 稻富榮次郎著

761/6

古事記概説

山田孝雄著

昭和一五、一二 目黒書店 1・八〇
菊判 一八八頁
昭和一五、一一 中央公論社 814/22
菊判 二〇三頁 二・五〇

日本の言葉

(創元選書67) 新村出著

昭和一五、一一 創元社 040/39
四六判 三五二頁 一・六〇

能樂研究

能勢朝次著

昭和一五、一一 謡曲界發行所 486/11
四六判 三一五頁 二・五〇

國語學史 時枝誠記著

昭和一五、一二 岩波書店 771/4
菊判 二六七頁 二・三〇

平田篤胤

山田孝雄著

昭和一五、一二 寶文館 843/138
菊判 三四六頁 二・〇〇

興亞國民東洋史

有高巖著

昭和一五、一一 同文書院 995.1/13
菊判 四八六頁 三・八〇

宗

祇

(創元選書70) 荒木良雄著

昭和一六、一一 創元社 843/139
四六判 四四六頁 一・七〇

411
468

昭和十六年六月二十五日印刷
昭和十六年六月三十日發行

編輯兼
發行者 和歌山高等商業學校圖書課
村野彦吉

印刷者 和歌山市小松原通六丁目
百合川梅子

印刷所 和歌山市小松原通六丁目
百合川印刷所

終

